

静かな空

連絡先 742-2602 山口県大島郡周防大島町油宇 福田忠邦 Tel+ Fax: 0820-75-1045

戸村良人 大島上空の米軍機を撮影

2013年11月18日

昨年9月、瀬戸内ネットのみなさんが、由宇町（岩国市）でのフィールドワークのあとで、大島の米軍機を視察にきて、文珠山の頂上で、轟音をたてて飛ぶ艦載機を視察しました。このメンバーのひとり、周東町（岩国市）の写真愛好家戸村良人さんは、頭上を飛ぶ米軍機を克明に撮影しましたが、あいにくと海上にかすみがかかって、目の前に見える岩国基地の克明な画像をとらえることはできませんでした。

そこで戸村さんは、ぼつぼつ冷気を感じずる11月に、もう一度文珠山にのぼりました。今度は、飛行する米軍機と岩国基地のはっきりとした画像をとらえることができました。毎日みているはずの私たちでも、こんなにいろんな飛行機が飛んでいるというのは驚きでした。



右図は「空飛ぶガソリンスタンド」 →
空中給油機 (写真はインターネットから借用)。

下の戦闘機と比較してみてください。これが大島の市街地に墜落したら、想像もできないほど悲惨な事態になります。



戸村良人 年末 再び文珠山で米軍機を撮る

2013年12月12日 10時23分～15時08分

戸村さんは、もっと空気がきれいな冬景色を撮影するために、12月にも文珠山に登りました。この日は快晴で、岩国基地も鮮やかに撮影できましたが、加えて、米軍機が連続して文珠山上空を飛行し、大島の基地災害の現実がしっかりカメラにおさめられました。この写真に、戸村さんご自身のメモ書きをそえて、紹介します。

☼ ☼ ☼ ☼

この日は天気がよく見通しが良いようなので急遽文珠山へ。文珠山頂上へ車で登りました。自分も行ってみたいと思われる方のためにアップします。

文珠山から

みた

岩国基地



轟音が聞こえてまもなくホーネットが飛んでいくのがみえました。1番目の機。脚が出ています。(左図) 10:36。このホーネットは岩国基地上空で見失ってしまいました。ひょっとしたら基地には降りず、そのまま北の方向に飛んでいったのかも。このようなのが北広島町や浜田市の上で低空飛行するのもかも。



2機目のホーネットです。「06」と機体番号がはっきり読めます。(左図) 10:47
機体番号は飛んでいるときはわかりません。写真撮って帰って、このように拡大してみたらはっきり読めます。

ちょっと忘れ物取りに駐車場の方へ
いっていたら、轟音が聞こえました。
頂上展望台のようにはいかず、これ
がやっとでした。3機目のホーネット
です。(右図) 11:04



4機目のホーネットです。ホーネットは
音がデカイので、まず轟音が聞こえます。
それから頭の上を探すと、このように見
えます。(左図) 11:15

今、これを書いているとき (13日午前9時21分、自宅の机上で) 轟音が聞こえました。部屋の中にあるカメラを探し、レンズをセットして窓を開けてみたら、すでに遅し、轟音も飛行機も見えませんでした。よく家から外を飛んでいるホーネットなどの写真を見せて貰いますが、頭が下がります。カメラをしょっちゅういじくっている私でもそれですから。

尾翼の機体番号が「9161」と読めます。
岩国基地所属の海上自衛隊 UP-3D
訓練支援です。これは着陸するところが見
えました。(右図) 11.22





5機目のホーネットです。機体番号は「00」となんとか読めましたが、これは脚を出していません。(左図) 11:30

6機目のホーネットです。5機目のホーネットより少し遠く、機体番号はまったく読み取れません。(右図) 11:47



7機目のホーネットは、南の空から、すぐ頭の上をこんなに近く飛んで文珠山のすぐ上空を北へ飛行していきました。(左図) 11:51

すぐに8機目が飛んできました。7機目もこれくらい近く飛んだような気がしますが、うまくキャッチできませんでした。8機目はこの通り。(右図) 11:59

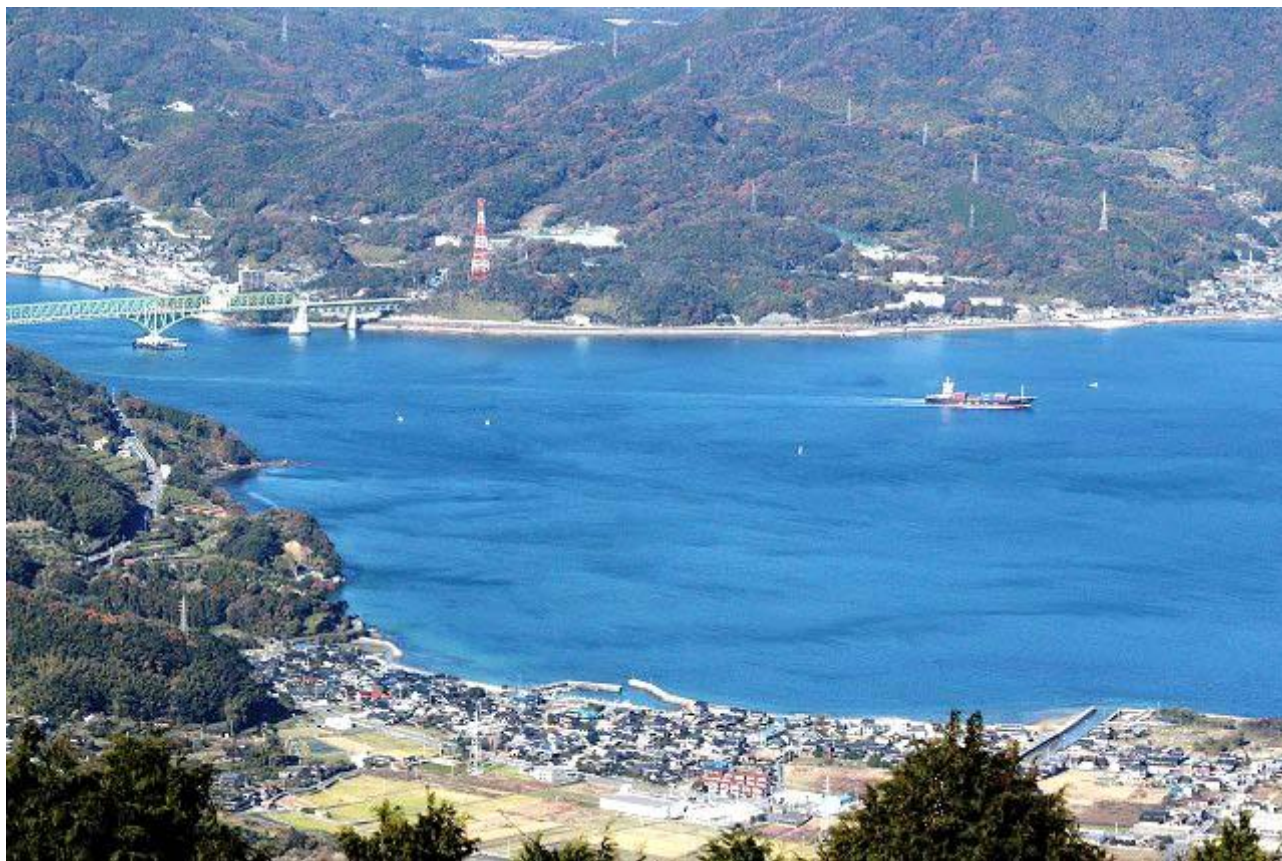


米海兵隊E C 2ホークアイです。これも着陸するところは見えませんでした。北の空に消えていったのかも。(左図) 14:59

ありや、岩国基地から黒い煙が！
だんだん煙は大きくなっていきます。
11月15日に、基地内で廃燃料を燃やしているのを紹介しましたが、この日も派手に燃やしています。（右図）15:07



このとき、上を飛行機が。ちょっとピントが合いづらく、うまくキャッチできませんでした。また、基地の煙が気になっていたため、この機がこのまま北へ飛んでいったのか、基地に着陸したのかはよく見ていません。（左図）15:08



瀬戸内海国定公園。美しいです。じっと見ても飽きません。
(戸村良人の写真展 → <http://tomura.lolipop.jp/> 「行動の写真集」)

戸村良人 年頭にも 文珠山頂上で米軍機を追う

写真愛好家戸村良人さんが、新年1月10日、また雪の文珠山に登りました



雪で薄化粧の文珠山と三蒲地区



12時37分 米海兵隊 KC-130 空中給油機ハーキュリーズが東に飛びあがりました。機種は双眼鏡で判断したものです。

13時14分、米海兵隊 EA-6B プラウラー電子戦機が飛んできました。(この直前、カメラの不具合で、鮮明な写真がとれなかった)。



13時27分 南に自衛隊機らしき機がみえました。上のコブは2つ。日の丸が見えます。海上自衛隊 UP-3D 訓練支援機のようなようです。62と番号が読めます。海上自衛隊機 UP-3D 訓練機に間違いありません。車輪をだしています。基地に降りるようです。



13時33分 基地から飛び上がった機、東の阿多田島上空でぐるりと向きを変更。岩国基地にもどっていきます。何という機かはわかりませんでした。(左図)

13時48分 また1機飛び上がりました。また阿多田島上で向きを変え、岩国基地の方へもどっていきます。基地の東の上に(右図)。



13時49分 かなり寒くなってきました。もうボチボチ引き揚げようかと考えていたところ、轟音が聞こえました。日の丸が見えます。自衛隊機です。番号は35と読めました。コブは小さいのが1つ。海上自衛隊機OP-3C画像データ収集機です。周防大島の西を南から北に、由宇上空から岩国基地地西上空に向かいます。基地西の上空で向きを変え、降りてきます。

戸村良人さんは、新年早々、米軍機、自衛隊機のリアルな姿をとらえてくれました。岩国基地上空を飛ぶ「空飛ぶガソリタンク」**空中給油機**も確認しました。実際に見ながらの戸村さんの写真解説は大変説得力があります。地元の大島住民もなかなか見ることのできない、近くでとった画像と解説で、大島の現実をあらためて知ることができました。寒中ご活躍の戸村さんに敬意を表します。

戸村さんは長年広島市役所に勤務。定年退職後は、米軍再編反対の運動などに参加して、写真報道で活躍しておられます。瀬戸内ネット会員。岩国市周東町在住。

廿日市市議会 騒音測定器設置の請願を採択

米軍機騒音激増の廿日市市は、24時間、爆音をデシベルで測定する爆音測定器を市北部に設置しました。さらに市民団体は昨年11月、市議会に市庁舎、各支所に、同じ型の騒音測定器を設置し、監視カメラで記録することを請願、市議会が全会一致で採択しました。

1月19日、沖縄県名護市の市民は、辺野古への基地建設を推進する自民党が応援した候補者に、4000票の差をつけて、移設反対の信念をつらぬく稲嶺進前市長をふたたび市長に選びました。前回の選挙と同様、共産党、社民党、生活の党、沖縄社大党と、さまざまな地域住民団体が、協力して稲嶺さんをおとし、名護市を守ろうとする市民を力強く支えた結果だと考えられます。この勝利から、岩国市民や周防大島町民は何を学ぶべきでしょうか。

名護市長選挙に思う

藤村英子

名護市長選で辺野古移設反対を唱えた稲嶺氏再選の報にほっとした。ふたをあけるまでは心配でたまらなかったから、どんなに民意が反対でも政府のあの手この手の策で、屈してしまう例が多々あるからだ。辺野古移設反対を唱えて当選した仲井真知事も、政府の大盤振舞で転んだし、岩国市も以前艦載機移駐反対を唱えた市長に、政府は約束していた市庁舎建設費を拒否した。これでは岩国が夕張のようになる、破綻してしまう、等の噂を真に受けた市民は、圧力に屈せず、民主主義を貫こうとした市長を選ばず、容認の市長を選んでしまった。

原発建設でゆれる上関町も然りだ。アンケートでは反対が多数を占めていたのに、補助金なしでは町は成り立たないと、建設賛成の町長が続いている。

一体いつから日本はこんなさもない国になったのだろうかと憂いていた時の今回の名護市長選の快挙だ。とっさに、辺野古を訪れた時、座り込みをしていた女性の顔が浮かんだ。そこに生息しているジュゴンやサンゴなどの絵葉書を作って売っていた。「この美しい海をこわして軍事基地を造ろうなんて・・・」と懸命に訴えていた。そばにはエメラルドグリーンに輝く海が広がっていた。そのとき私は上関原発反対を貫いている祝島と同じだなと思った。

思えば18年前、当時の橋本首相は言った。「今後5年ないし7年の間に普天間は返還します」と。そのとき私は本当によかったと思った。その裏で、もっと強大な基地を沖縄に造ろうとしていることなど夢にも思わなかったから。でもさすが沖縄県民、18年たった今でも杭1本立てさせないで頑張っているのだ。反対の座り込みも3000日をとうに超えている。

もう辺野古移設は、これだけ反対が強いから無理だろう、アメリカだって嫌がっている処へはきたくない筈だ、等の言葉がとびかい、移設は遠のいた

かの感を抱いた。そこへ安倍政権の登場だ。沖縄の負担軽減、沖縄の振興を口にしながら、安保が大事と、基地強化に邁進している。

稲嶺さんが再選された直後、政府は「市長の権限は限定されている。埋め立てについては淡々のご理解を求めながら進めてゆく」「方針に変わりはない」「市の行為は不当だと行政訴訟を起こせばいい」等々、まるで地方自治の精神も民主政治も眼中にないかのような発言だ。

安倍政権なら、どんな理不尽なこともやりかねないぞと怒りを覚えた。はたせるかな選挙の2日後には、埋め立てにむけての業者を募る入札手続きを開始した。啞然とするばかりだ。

稲嶺氏は「民意を尊重し、埋め立てを前提とする手続き協議はすべて断る」と明言している。しかしこれまで基地問題や原発問題で、民意を踏みにじって、制度や法律を変え、政府の思い通りに突き進んだ例は枚挙にいとまがない程あるから、楽観はできない。1例だが、太田県知事の時「期限が来たから基地を返して！」の願いに対し、政府は「軍用地特措法」を変え、使用期限が来ても返さないで米軍が使用できるようにした。

太田知事は「沖縄の将来は沖縄の住民で決めたい。基地を平和と人間の幸せにむすびつく生産の場に変えたい」と言われた。これが本土の盾となり、唯一地上戦を体験した沖縄県民の願いだと思う。命どう宝の島「美(チュウ)島」の歴史も知らず、沖縄を苦しめる安部政権は最低だ。口では日本を守るためと言いながら、することなすこと、戦争回帰の道へひた走っている。

民主政治をかなぐり捨て、日米同盟が大事だという。軍事同盟はやがて戦争へと突き進むことは歴史が証明しているのに。ほんとうに平和を望むなら、沖縄にも、本土にもアメリカの基地はいらない。基地は日本をまもるどころか基地がある故に危険なのだ。

岩国も基地の沖合移設の言葉で大拡張したあげく、極東一の軍事基地になろうとしている。このままいけばやがて戦争の加害者にも被害者にもなるのだ。戦争の反省、そして多くの犠牲の上でつくりあげた平和憲法を守り、世界に広めることこそ真の平和への道だと、戦中を生きた私は確信している。

大企業にとって戦争は際限のない利益につながり、その大企業から献金を受けて行う政治は、私達庶民にとっては大きな不幸につながることも知らねばならないと思う。まさに今の安部政権がそうだから。

